

## 成人として震災からの復興を支援したい 平成23年度成人式

1月8日、二十歳の門出を祝う「平成23年度成人式」を中央公民館で開催しました。本年度成人を迎えたのは、平成3年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた370人。実行委員長の高橋博斗さん(小原)と副実行委員長の<sup>たかはしひろと</sup>大野晴子さん(大平坂谷)が、これまで育ててくれた家族や地域社会に感謝を述べるとともに、「東日本大震災を経験し、人と人との結び付きや絆の大切さを実感しました。復旧・復興に向けて微力ながら支援したい」と誓いました。また、会場で新成人への募金活動を行い、NPO法人白石うぐいす会に寄付金を贈呈しました。



▲成人としての抱負を述べた高橋さん(右)と大野さん

## 元気に100歳を迎えました 菅野つぎさんに祝詞と松竹梅敬老祝金を贈呈



▲風間市長と笑顔で話をするつぎさん

12月21日に満100歳を迎えた菅野つぎさんを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈りご長寿を祝福しました。現在、仙南サナトリウムに入院中のつぎさん。この日はご家族のほか、病院職員も集まり、みんなでつぎさんのご長寿をお祝いしました。つぎさんは白川のご出身で、結婚後は3人の子どもに恵まれました。昭和20年に夫が戦死してからは、子育てに奮闘の日々を送られました。現在は孫が6人、ひ孫が8人います。長生きの秘訣は「好き嫌がなく何でも食べること」と、しっかりとした口調で話していました。

## 合格目指して粘り強く 白石高校PTA主催 合格祈願 力餅

12月22日、受験生の合格を祈願した「力餅」の配布と餅つきが白石高校で行われました。白石高校PTA(山田光彦会長)が主催したこの催しは、これからの受験に粘り強く取り組み、合格をつかみ取ってほしいという思いを込めて、今年初めて実施されました。

保護者や教職員が当日まで生徒に内緒で準備を行い、サプライズプレゼントとして発表。この日は厳しい冷え込みにも負けず、生徒たちの元気な掛け声が響き渡っていました。おいしい餅を食べて、おなかも心も満たされた受験生。合格目指して頑張ってください!



▲楽しそうに餅つきをする生徒たち

## 続けることの難しさは感じない それが日常 東益岡地区「防犯夜警」が70周年



▲氷点下の寒さと雪の中、地区を巡回する青年会の皆さん

12月25日、東益岡地区「防犯夜警」の発式が東益岡会館で行われ、式後、東益岡青年会(大橋利史会長)の皆さんが防犯・防災のために地区を巡回しました。昭和17年度から毎年欠かさず行われてきたこの行事。拍子木や鐘を持ち「火の用心!」と叫ぶ声は、この地区の冬の風物詩となっています。夜警が代々続いてきた理由を「先輩たちがやってきたことであり、それが東益岡の日常。続けることの難しさは感じない」と青年会の皆さんは話してくれました。今回も12月25日から1月14日までの3週間、毎日続けられました。

## 家族で出掛けた仙台港を表現 村井杜王くんが図画コンクールで優秀賞を受賞

12月21日、福岡小5年の村井杜王くんが市役所を訪れ、「平成23年度国土と交通に関する図画コンクール」で優秀賞(国土交通事務次官賞)を受賞したことを風間市長に報告しました。村井くんは「港のある風景」と題して、夏休みに家族で出掛けた仙台港の風景を描写。「海に映る向こう岸の建物などを描くのが難しかったけど、うれしいです」と受賞の感想を話してくれました。

このコンクールは乗り物や道路、港など国土交通に関するものを課題に作品を募集。優秀賞は最優秀賞に次ぐ賞で、全国4,812点の応募の中から選ばれました。



▲受賞作品は国土交通省のホームページにも掲載されています

【講評】青い空、浮かぶ雲、港湾にある建物は、海に影を反射させています。見ている思わず引き込まれてしまう静けさでした。

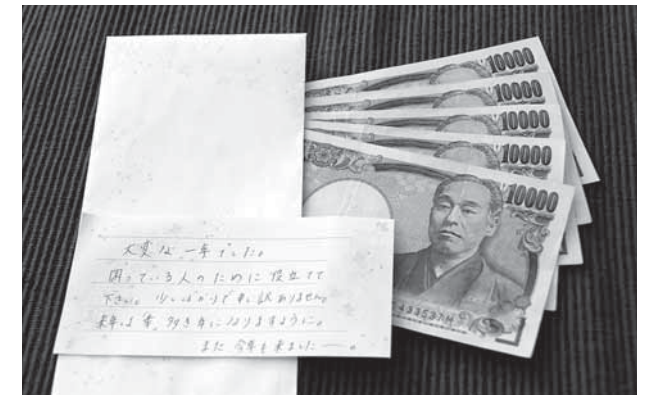
## 宮城の代表として華麗な踊りを披露 第19回都道府県対抗「全国ダンススポーツ大会」

11月13日、内閣総理大臣賞争奪「第19回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会in山口」が山口県周南市で開催され、山田理絵さん(大畑一番)が県代表として出場しました。宮城県選手団は開会式で、「全国の皆さん応援ありがとう」の横断幕を手に入場。ダンスを通して他県の代表と交流を深めました。理絵さんは、父・弘さんが代表を務めるダンスサークル「DS白石」に所属。毎週水曜日の19時から福岡公民館で練習に励んでいます。「ダンスは年齢・性別に関係なくできるスポーツ。ぜひ多くの方々に楽しんでほしい」と話してくれました。



▲大会に出場した宮城県代表の皆さん(右から3番目が理絵さん) DS白石のお問い合わせは山田弘さん(☎090-9740-1717)まで

## 「幸」多き年になりますように ふれあいプラザのポストに5万円入りの封筒



▲昨年のご寄付はふれあいプラザ内の遊具などに活用しました

1月4日、現金5万円と手紙入りの封筒がふれあいプラザのポストに投函されていました。手紙には「大変な一年でした。困っている人のために役立ててください。少しばかりで申し訳ありません。来年は「幸」多き年になりますように。また今年も来ました」と柔らかな字で書かれていました。本市では昨年1月から2月にかけて、「片倉小十郎」や「モンキー・D・ルフィ」を名乗る方から市内の施設などに現金や文房具が寄付され、子育て支援に活用させていただきました。今回のご寄付も子育て支援などの福祉事業に活用させていただきます。

## サッカーの楽しさをみんなに伝えたい ベガルタ仙台の平瀬智行さんが北保育園の園児と交流



▲ボールを追い掛け、笑顔でふれあう園児と平瀬さん

12月20日、ベガルタ仙台アンバサダーの平瀬智行さんとマスコットキャラクター・ベガッ太くんが、園庭の芝生化に取り組んでいる北保育園を訪れ、園児たちとサッカーふれあい交流を行いました。平瀬さんは園児たちに「楽しくサッカーをやりましょう」とあいさつ。ボールを使った遊びなどを通して、サッカーの楽しさを園児たちに伝えていました。また、ベガッ太くんは室内でじゃんけんゲームなどをして園児たちと交流。園児たちは、「サッカー大好き!」と笑顔で平瀬さんやベガッ太くとふれあっていました。